

## オカピに関する展示とイベントについて

正木 美舟

現在金沢動物園で飼育しているオカピは、1997 年によこはま動物園に初来日した個体であり、オカピのスタッドブックやマニュアルなどを掲載しているオカピマネジメントサイトでは、世界で9 番目に高齢なオカピとされている。

オカピの展示場はオカピ飼育の国際基準を満たすため、560 m<sup>2</sup>と1 頭分の展示場としては広大なものになっている。単独飼育動物であるため、その展示場にいる1 頭を見つけやすくとともに、雨天や冬季には室内開放が必須条件となっている。展示場で見つけられない場合の対策が求められるため、見つけやすい、見える展示をすることで、来園者に動物の魅力が伝わりやすくなる。

また、目の当たりにすることや、その個体について知り、その動物に関する知識が増えることで、対象の動物に関して親近感、共感や関心が深まり、応援したい、守りたいという気持ちが生まれやすくなる。

親近感の醸成から行動変容という流れをふまえたガイドやパネル展示、10 月18 日の「世界オカピの日」に合わせたイベントを実施している。親近感や応援したい・守りたいという気持ちを行動に変えるヒントや機会を作り出すことで、来園者やイベント参加者に“野生動物やその保護、生息地での保全の重要性”を伝えるだけでなく、来園者から野生動物への直接的な貢献に結び付けることができる。具体的には、イベントでは物販ブースの売上の一部が、イベント運営の協力団体を通じてオカピの保全団体に寄付され、その活動資金等となり、生息地での保全活動への貢献に繋がっている。また、3 年継続して規模を拡大しながら実施することで、イベントの認知度は高まり、動物の保全に積極的な来園者が増え、保全団体への寄付額は初回に比べて約5 倍となっている。